

平成26年度がん薬物療法認定薬剤師認定試験につきまして

1. 試験範囲

- がんの薬物療法（抗がん剤の薬効薬理）
- がんの薬物療法（抗がん剤の用法用量など）
- 分子標的薬の薬効薬理
- 抗がん剤の調製に関する項目
- 抗がん剤の有害事象（ホルモン療法に関する内容）
- 抗がん剤の有害事象（分子標的薬）
- 抗がん剤の有害事象（分子標的薬を除く）
- がんの疫学・診断・病期分類
- 臨床試験

2. 参考資料

1. インタビューフォーム
2. 添付文書
3. がん診療ガイドライン（日本癌治療学会）
4. 新臨床腫瘍学 がん薬物療法専門医のために-改訂第3版-（日本臨床腫瘍学会）
5. 抗がん剤調製マニュアル-改訂第2版-：日本病院薬剤師会編

※がん薬物療法認定薬剤師認定試験問題例（見本）

問題1. 次の乳がんに関する記載について正しい組み合わせはどれか。

- a. ER-かつPgR-乳がんに対して、タモキシフェン投与は推奨されていない。
- b. 閉経前ホルモンレセプター陽性乳がん患者へのゴセレリン+タモキシフェン療法は、化学療法のCMF療法（シクロホスファミド/メトトレキサート/フルオロウラシル）を上回るDFS（無病生存期間）を示す。
- c. 抗がん剤未治療例で、エピルピシンの総投与量は900mg/m² を超えるとうっ血性心不全を起こすことがあるので注意することとされている。
- d. 末梢神経障害を起こす薬剤にドセタキセルがある。ドセタキセルは、シスプラチンとの併用で末梢神経障害が増強するため、併用には十分注意が必要である。
- e. 閉経後のエストロゲンは、脂肪組織などに存在するアロマトラーゼによりアンドロゲンからエストロゲンに変換されることで作られる。

	a	b	c	d	e
1	正	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤	正

問題2. 35歳、70Kgの患者で、6週間前から右腹部痛と悪心のためかかりつけの診療所を受診した。腹部のCT scanの結果、後腹膜内に大きな固形の塊があることが分かった。腹腔鏡で8.0×7.0cmの塊を除去した。患者は進行した睾丸がんと診断され、右睾丸を摘出した。患者はPVB（シスプラチン、ビンブラスチン、ブレオマイシン）療法の最初のサイクル治療をするために入院している。急性嘔吐の予防のために、ステロイドに追加して、どの制吐剤を追加するのが最善の選択であるか。

- ① オンダンセトロン ② メトクロプラミド ③ プロクロルペラジン ④ ハロペリドール

※注意事項：試験に関する個別的な質問はご遠慮ください。